

情報の連携にASP

多様な機能で業務を支援

四月、新・介護保険制度が動き始めた。新たに創設される地域包括支援センターの業務支援のツールとしてASP（アプリケーション・サービス・プロバイダー）というサービスが注目されている。費用の安さや運用の便利さのほか、多職種がネット上で情報を共有できる上に、課題の情報セキュリティについてもいまは本格的な対策が講じられている。ソフトを選ぶにあたって、ASPは大事なキーワードになりそうだ。

地域包括支援センター（以下、ケアマネ）は、「事務負担が軽減センター下、包括センター」は、①職 事業所）に導入されている「シーが回らない」との声も大きい。合相談支援、②虐待の早期発見、システムとの連携に支障が起きない。見・防止などの権利保護、③と指摘されている。個人情報、こうした包括センターの業務を支援するソフトがいくつかある。その中でも、この人が同じソフトを使用する。高額の初期投資が不要で、イ

地域の中核機関。つまり、ケアマネジャーや高齢者、医療・行政機関、NPO団体など地域のさまざまな機関や専門職の真ん中に位置付けられ、広範な情報やりとりされる。

例えば、今後包括センターから、さらに報酬請求表がROM形式だが、ASPといふのは予防プランの情報を集約し「紙」や「フロッピー」だ。インターネットを利用したシステムが導入された。インターネットを業務ソフトでも利用できるようにした。ASP事業者がソフトを

地域包括支援センターで再注目

東京・武蔵野市の財団法人天誠会は、今年一月にASPを法人施設・事業所に一斉に導入した。九年ほど前から専用回線を使って二つの老健施設での情報の共有化と同期（データ内容を最新に書き換え一致させる作業）を行っていたが、端末機やサーバーの管理上のトラブルでデータが消えたり、情報入力の手順の不備からデータが複数重複してしまったりケースもあった。「介護保険が始まる」と紙でのやりとりが非常に多くなった上、個人情報保護の問題も出てきました。紙を使



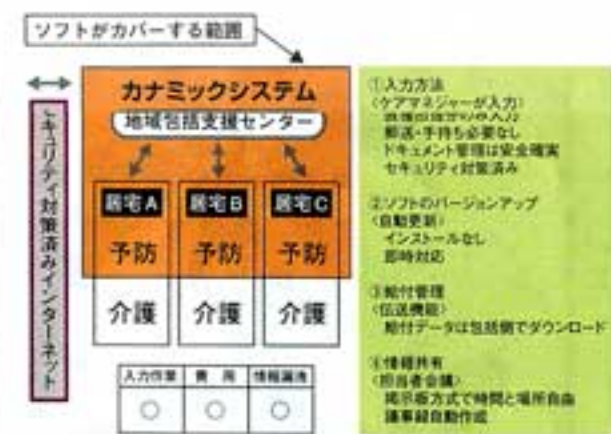
情報を守る大切さを訴える山本社長

「当時は現場から『サービス担当者会議』の開催は無理」という

きつかけはサービス担当者会議

カナミックネットワーク

地域包括支援センター機能の仕組み



「システムによって予防給付関連の業務量は三分の一に減る」と思う」（山本社長）

暗号化で情報保護

包括センター 給付管理も効率化

「暗号化技術により一般のインターネットのちなみに電子メールは「最も無防備な通信網」で、「内容が漏れるハガキでやりとりするもの」だ。個人情報を記載したやりとりは、してはいけないツールなのだ。



ASPのサーバーはIDCで集中的・専門的に管理される。

「暗号化技術により一般のインターネットのちなみに電子メールは「最も無防備な通信網」で、「内容が漏れるハガキでやりとりするもの」だ。個人情報を記載したやりとりは、してはいけないツールなのだ。

カナミックの

地域連携型ASP介護ソフトに

唯一の解決策がありました。

介護ソフトチェックリスト

- 作業の分担ができる。
- 効率的にプランチェックできる。
- データ入力を楽にできる。
- 安全にデータ管理ができる。
- 事業者間の連携ができる。
- 簡単に集計ができる。
- コストを削減できる。

地域包括支援センターからケアマネジャー、サービス事業所までトータルサポート

カナミックならインターネットで情報共有をはかります。無駄な二度打ちなし！もちろんデータは全て暗号化された上でやりとり。だから安全で確実。

システム利用料金

初期費用：5万円～

月額費用：2万円～

株式会社カナミックネットワーク

<http://www.kanamic.net>

TEL.03-5759-1175
FAX.03-5759-1185

〒145-0031 東京都品川区西五反田9-1-14 最勝ビル9F